

<p>1 学校教育目標</p> <p>『建学の精神』 球磨の地に『人材の泉を掘る』</p> <p>『教育目標』 三綱領のもと、知・徳・体の調和がとれた教育活動を展開し、高い知性と豊かな感性を持ち、心身ともに健康で、主体的に考え判断し、行動できる力を備えた地域や社会の発展に寄与する人材を育成する。</p> <p>『教育スローガン』 志し高く 理想の追求 ～ 知性を磨き、品性を高め、感性を養う ～</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>1 授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「南陵スタンダード」による「分かる授業」と「主体的・対話的で深い学び」の展開</li> <li>・ 学科や教科の枠を越えた横断的な学びと課題研究の充実</li> <li>・ プロジェクト研究や各種検定、実技・実験・実習を多く取入れた専門教育の展開</li> <li>・ タブレット PC を活用した ICT 教育の充実</li> <li>・ 家庭学習の習慣化と自主的な学習態度の育成</li> <li>・ 研究授業の充実と授業評価による授業改善</li> <li>・ 新教育課程の円滑な実施に向けた指導体制の充実</li> <li>・ 実学教育を通した望ましい勤労観、職業観及び奉仕の精神の涵養</li> <li>・ 大学や地域等との連携による特色ある教育活動の展開とキャリア教育の充実</li> </ul> <p>2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の身だしなみや挨拶の指導を徹底し、社会で求められる人材を育成</li> <li>・ 家庭と連携した生徒理解に基づく指導の実践</li> <li>・ 互いに声を掛け合える調和のとれたクラス集団の育成</li> <li>・ 行事や部活動、ボランティア活動などを通した自主性と主体性の育成</li> <li>・ 地域や異年齢集団との交流活動を通した自己有用感の醸成</li> </ul> <p>3 教育相談体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期面談の実施と自治体や関係機関との連携強化</li> <li>・ いじめ通報アプリの活用と相談窓口の周知</li> <li>・ 個別の教育支援計画と指導計画の活用推進</li> <li>・ 生徒支援会議や教科担当者会議等における具体的な手立ての提示</li> <li>・ 学校いじめ防止基本方針に基づいたいじめを起ささない雰囲気醸成</li> <li>・ 将来の姿を思い描き、実現に向けて前進する態度の育成</li> <li>・ 他者や社会との関わりを通した自己有用感の醸成</li> <li>・ 自他を大切にす豊かな心を持った気づき、気遣いのできる人材の育成</li> </ul> <p>4 安全・防災・保健・環境教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に密着した安全・防災教育の実践</li> <li>・ 危険を予知し回避する実践的行動力の育成</li> <li>・ G A P に準じた農場管理の推進</li> <li>・ 学校版 ISO の推進</li> <li>・ 健康教育の推進と検診後受診率の向上</li> </ul> <p>5 魅力ある学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に開かれ信頼される学校づくりの推進</li> <li>・ 地域連携・中高連携・高大連携による特色ある高校づくりとキャリア教育の実施</li> <li>・ 地域や小中学校、同窓会等への情報発信と募集定員の確保</li> <li>・ チーム南陵としての組織的、横断的な運営の実践</li> <li>・ 学校運営協議会員等との連携強化と外部評価の活用</li> </ul> <p>6 地域貢献活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流学習会など専門教科を生かした社会貢献</li> <li>・ 地域イベント等への積極的な参加と地域理解の促進</li> </ul> <p>7 働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本校の指針である「働き方改革の推進方針～できることからまず 1 つ～」の推進</li> </ul>
---

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の 観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	募集 定員 の確 保	入学者 数の確 保	○全学科、定員 80%以上の受 検者確保と入 学者数 150 人 以上	○南稜応援隊による PR 活動を推進する ○ホームページやマスコミ等を活用して本校教育活動を周知する ○体験入学及び中学生保護者向け学校説明会を充実させる	C	○具体的な方策に示した活動のほかに PR 動画の作成などに取り組んだ。 ○ホームページ 1 日平均閲覧数は 1000 件以上であり、ホームページの更新も職員が意欲的に行った。 ○中学生保護者向け説明会は今年度も対話型で行い満足度 100%であった。 ○志願者数は前期 90（昨年度 124）名、後期 15（昨年度 27）名と昨年を下回る結果で、目標を達成できていない。また、学科、コースも福祉コース以外は 80%を達成できなかった。
	業務 の改 善	実効性 のある 業務改 善の実 践	○「働き方改 革を意識した 業務遂行がで きている」と 回答する職員 85%以上	○部活動指針に沿った部 活動運営を徹底するとともに部活動数を見直す ○ノ残業デーでの定時退勤を徹底させる ○整理整頓日（クリーンデー）を設定する ○アンケートは Forms や Cromebook を活用し効率化を図る	B	○部活動数見直しに着手した。また、部活動指針に沿った部活動運営やノ残業デー、クリーンデー、ICT 活用によるアンケートの効率化などに取り組んだ。 ○職員アンケートでは「南稜高校は働き方改革が計画的に推進されている」50.0%、「私は働き方改革を意識し、業務の効率化と計画性を図っている」80.8%で目標は下回ったが、昨年度より意識は上昇した。
	働き 方改 革の 推進	働き方 改革の 実践	○時間外勤務 の縮減（超過 勤務平均時間 の前年度比 10%削減）	○「働き方改革の推進方 針～できることからまず 1 つ～」に沿った改革を 推進する ○主任主事等を中心に各 部署における働き方改革 を推進する	B	○月平均時間外勤務時間は 41 時間程度で 10%削減を達成できたがまだまだ多い。また、80 時間を超える職員は平均 4 名で、昨年度より 1 名減少した。 ○「働き方改革の推進について～できることからまず 1 つ～」に沿った改革をほぼ推進することができた。
学力 向上	わか る授 業の 実践	授業改 善	○生徒の 90% 以上が「授業が 理解できた」と 回答する「わか る授業」の推進 ○ICTを活用した授業の 実践	○公開授業週間や授業研 さんの機会を通して、南稜 スタンダードの観点から各教 科及び学科内で授業内容 の振り返りを図る ○職員への南稜スタンダード と ICT 活用の浸透及びその 定着を図る機会を設ける	B	○授業で「わかった」「できた」という達成感があると回答した生徒が約 88%である。今後も生徒への学習に対する興味・関心を高めるような工夫及び「南稜スタンダード」の理念に基づいた授業実践を継続していく。 ○ICT を活用した授業を行うことで、「授業に積極的に参加している（91.2%→92.3%）」、「授業で分った、できたという達成感がある（85.8%→87.8%）」と回答した生徒の割合が昨年度よりも上昇した。
	学習 習慣	欠席防 止	○13 クラス中 8 クラスで年間出席率 98%以上	○各部と出欠状況の共有を図る ○担任や学年団を中心に、家庭と連携した登校支援を充実させる	B	○13 クラス中 7 クラスが 98%以上を達成し、このうち 99%以上は 1 クラスであった。学校全体としては 97.6%（12 月末）。引き続き学習意欲の更なる喚起、及び不登校傾向生徒への継続的な対応を実施していく。

キャリア教育 (進路指導)	進学・就職支援	進路目標の達成	○進学・就職とも、志望先への合格・内定100%	○校内進路模試やガイダンス等により進路意識を向上させる ○希望調査と面談による適正な選択を支援する	A	○多くの生徒は進路活動に積極的に取り組み、進路目標を達成させた。 ○進学・就職ともに内定率100%を達成した。特に就職では1回目の試験での不調者がわずか1名であった。
	定着指導	就業の継続	○早期離職率25%以下	○キャリアサポーターと連携した事業所訪問の機会を利用し、定着指導を行う ○社会接続支援として3年生に早期離職防止のための講話を行う	B	○令和4年3月卒業生の離職者は10名(7.0%)。前年度の離職状況よりやや悪化した。今後はキャリアサポーター、関係機関とよりいっそう連携を図りながら、内定後の社会接続支援の取組を充実させていきたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒主体の校則整備の推進	○校則に対する正しい理解に基づいた意識の変容 ○南稜高校の生活や服装、頭髪などに関するきまりを理解できている生徒80%以上	○各ホームルームにおけるセルフチェック等により、自分で整容を整える環境づくりを行う ○生徒が、校則改定等に積極的に関わることで学校の諸活動に参画している意識をもち、主体的で発展性のある生徒会活動を推進する	B	○生徒から要望のあったカラオケボックス及びゲームセンターの利用について討議し、利用時間(8時～19時)を設定した。 ○校則を理解している保護者は85.6%、生徒は70.4%であった。今後、生徒自身が考え行動できるよう指導する必要がある。 ○整容検査の再々検査を毎回実施している。自発的に整容を整える指導の必要性がある。 ○情報通信機器の校内使用について生徒から提案があったが、SNS等による人間関係のトラブルが発生し、現行の規則の改定はできなかった。
	自尊感情や自己肯定感の涵養	自尊感情の向上	○高校生活をとおして成長していると実感している生徒90%以上	○特別活動(部活動・生徒会・農業クラブ・家庭クラブ・ボランティア等)への参加を促す ○学校行事における生徒の主体的活動を推進する	A	○高校生活をとおして成長していると実感している生徒は89.6%であった。 ○体育大会や南稜祭を一般公開し、生徒が主体的に活動する機会が増えた。来年度の農ク全国大会では生徒の主体的活動をさらに推進していきたい。
人権教育の推進	人権教育・適応指導	人権教育の充実	○南稜高校での人権教育をとおして他人を思いやる心を持ち、人に優しく接しようとする思いが強くなった生徒90%以上	○対人関係の築き方や人との関わり方などをLHRや授業を通して伝えていく ○人権教育に関する掲示物の掲示を行う	B	「人権教育をとおして他人を思いやる心を持ち、人に優しく接しようとする思いが強くなった」と答えた生徒は87.9%であった。本校における人権課題を具体的に捉えるとともに、掲示板「人権教育コーナー」を設置する等人権教育に関する掲示物が目に付くような工夫をしたい。
	特別支援教育体制の充実	個別の教育支援計画と指導計画の作成と引き継ぎ	○作成した教育支援計画、指導計画の評価記入率100%	○毎週1回実施の生徒支援会議において個別の教育支援計画の検討を実施することで組織的な支援計画の運用を図る ○特別支援学校等の巡回相談を活用し、手立てや評価のアドバイスをもらう	C	個別の教育支援計画・指導計画の作成について、生徒支援会議で度々議題としたが、作成は十分できなかった。巡回相談は1回実施し、本校職員が多くの学びを得ることができた。次年度は巡回相談の実施と個別の教育支援計画・指導計画の活用に取り組みたい。
	命を大切に育む心	予防的教育的相談の実施	○担任による定期面談を年3回実施 ○ピアサポート研修、GRIP研修	○学期に1回の担任による面談を推進し、気になる生徒へのサポートを行う ○生徒主体のピアサポート研修とGRIP研修を実施し、	A	○学期に1回の面談週間、生徒主体のピアサポート研修とGRIP研修を実施することができた。一方でSNSによる人間関係のトラブルが多発しており、定期的に生徒に考える機会を設ける

	む指導		を年3回実施	教室内で支え合える体制を充実させる		必要性を感じた。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	相手の気持ちを考える心の育成	○学校評価アンケートで「南稜高校に入学して他人への思いやりや優しさが高まった」と回答する生徒90%以上、保護者80%以上	○アンケートやスクールイン、週1回の生徒支援会議等とおして生徒の把握と教員間の適切な情報共有を図る ○集約された情報を基に組織的にいじめ防止の対応を行う ○生徒総会時に『いじめ撲滅宣言』を行い、いじめを許さない環境づくりを行う ○LHRを活用し、ストレス対処やSOSの出し方を級友と共有することで、いじめが起きにくい環境づくりに務める	B	○学校評価アンケートでは、生徒87.9%、保護者85.1%が「南稜高校に入学して他人への思いやりや優しさが高まった」と回答しており目標を概ね達成できた。 ○「南稜高校は落ち着いたよい学校である」と回答した生徒が53.9%（保護者86.9%）であり、生徒の意見をさらに聞く必要があると感じた。 ○「いじめや暴力」への対応について、23.9%の生徒が否定的な回答をした。いじめの早期発見のため、学年団との連携強化に努めたい。
地域連携（コミュニティスクールなど）	学校運営協議会の開催	総合型コミュニティスクールの実践	○地域や学校の実態を踏まえた授業や関係機関と連携した授業など特色ある授業に取り組んでいる教員80%以上	○学校運営方針の周知と共有を図る ○学校の課題や情報等の共有を図る ○学校の課題の解決に向けた協議に取り組む	A	○授業においては84.0%の教員が特色ある授業に取り組んでいると回答し、生徒も95.4%、保護者も94.1%が肯定的回答であった。 ○運営協議会では、学校運営方針の周知や学校の課題の解決に向けた意見交換ができた。
	地域連携	地域とともにある学校づくりの実践	○地域連携や地域活性化に関する活動への参加生徒80%以上	○地域イベントへの積極的参加と地域と連携した研究活動を推進する ○各学科で開放講座を実施する	B	○今年はコロナ禍であっても地域活性化に関する活動に少しずつ参加ができたが、目標達成までには至らなかった。 ○昨年度に引き続きコロナ禍で開放講座は実施できなかった。
特色ある学校作り	専門教育の充実	南稜スタダート農場版の実践	○「専門教科に興味・関心がある」「学習内容を理解している」生徒85%以上	○基礎、基本を押さえた授業を実践する ○全教科でポートフォリオ評価を行う	A	○授業評価において、「積極的に参加している」92.3%「分ったという達成感がある」87.8%と高い評価であった。 ○ポートフォリオ評価は、全科目での実施までには至らなかった。
	地域の素材や人材の活用	地域の資源の活用	○「郷土に誇りを持っている」生徒90%以上 ○農業系学科・コースでの地域資源活用率100%	○地域特産物や人材を活用した授業展開による郷土愛の醸成及び新たな地域資源活用方法を提案する	A	○郷土に誇りを持っている生徒90%以上で郷土愛は醸成されている。 ○農特産物等地域資源を活用した学習活動はほぼ100%であった。復興支援に繋がる地域と連携したプロジェクト学習も行っている。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>(第1回学校運営協議会でのご意見等)</p> <p>○先生方の思い、保護者の思い等、色んな立場からの子ども達に対する思いがある。「人材の泉を掘る」→この地に若者を残したい。地域に残る若者が増えて欲しい。</p> <p>○生徒達が前向きな心構えができるように先生方に声かけてほしい。子どもたちのネットワーク作りが必要であり、そのネットワークが地域を盛り上げる存在になる。地域のリーダーを担う子どもたちが増えている。南稜卒業生が活躍している。卒業後も地域をわすれないように生活してほしい。</p>
--

- 小学校の登校指導の際に南陵生は挨拶をしてくれる。公開授業を見学し、学びに向かっている姿を見ることができた。学校安全総合支援事業について取り組んでいることに関心を持った。昨年度までの2年間、豪雨による渡小学校の被害を経験。渡小学校での避難訓練をしていたが、発生したのが土曜日だったため、自宅での命を守る等、生徒の安全に関する資質能力を身に付けることが必要で、研究による成果をあげてほしい。
- 先日の田んぼダムについて。あさぎり中の2年生にとって深い学びとなった。今後も中高連携を進めていきたい。
- 役場では、防災危機管理官を中心に災害を未然に防ぐ取り組みを行っている。避難所運営の教育を南陵高校とあさぎり町が連携して取り組んでいる。共助で助けあう組織・生徒達も訓練をして助け合い、災害を乗り切る活動を継続して行ってほしい。
- 警察 SNS の利用について、インスタグラムでの性被害、いじめ被害が県内の高校で起こっている。学生が被害にあわないように指導を行ってほしい。
- ボランティア部とスマートフォンの相談会や養成講座を行った。講師として使い方を教えて、素晴らしい生徒ばかりだった。
- タブレットを活用している。Wi-Fi はどれぐらい繋がっているのか。パソコン室の使い方の見回りについてもお願いしたい。

(学校評価アンケートにおける保護者からの意見等)

- いじめや盗難に対して対応が迅速ではない。もっと真剣に生徒と向き合って欲しい。
- 南陵祭、体育祭と子供達が意欲的にとても楽しく過ごせる事ができていて嬉しく思う。南陵祭の時、販売の生徒の中にマスクをせずに作業している女の子がいたのは残念に思った。
- 挨拶する生徒が相変わらず少ない。自転車通学のマナーも悪い。
- 保護者会費も払っているのに空調設備があまりなってない。夏の暑い日、教室のクーラーがついてない日が多くて、熱中症の心配を毎日していた。暑い時間帯に消す意味がわからない。職員室はついているのに、教室はついてないのはおかしい。建物が古く、安全面が心配。トイレも古く清潔に見えない。
- コロナでなかなか学校に足を運ぶ機会がなく、学校での事が全くわからなかったのが残念。あつという間の三年間だった。
- いつも我が子がお世話になっております。性格上積極的とは言えないが、日々の登校、当番や行事ごとに休まず出席し、学校生活を送っていることを嬉しく思う。先生方の熱心な指導のおかげで無事内定も頂いた。感謝している。
- ホームページ、いつも見させていただいている。学校の様子が分かるのと同時に、子供とのコミュニケーションのきっかけとなっている。今後も投稿を是非続けて欲しい。
- 南陵高校に進学させて本当に良かったと思っている。
- とてもいい学校だと思う。生徒に対して親身になってもらえて、ほんとと安心しているし、ありがたく思っている。入学してから、進路についても知ることが多かったのも、もっと多くの人に進路先など周知しないと勿体ないと思う。せっかくだからいい学校なので、多くの人に入学してほしいと思う。

(第2回学校運営協議会でのご意見等)

- 高校生は学ぶことが多すぎて何に集中すればいいのか。以前は農業高校だから農業を学べばよかったが、今は社会に対応できるように、などと言われ、子どもも大変だと思う。
- 現在地域を若い人が盛り上げてくれている。地域活性のために、働く場を作るなどのサポートをしていきたい。
- 昨年1月ゼロカーボンシティ宣言をし、あさぎり町は脱炭素の町計画を作っている。町だけでなく学校も、環境に負荷をかけない生活のあり方を考えてほしい。生徒と一緒にどう取り組んでいけるのか、提携させてほしいのでご支援をお願いしたい。
- 自分の頃はなかった SNS の相談が非常に多い。指導するのも難しいと思うが強く言ってほしい。何かあればご相談を。
- 初めて本会に出席し、皆さん一生懸命やられていることがわかった。自宅へ生徒さんが卵を売りに来てくれる。素直ないい子。SNS とかこれまでなかったことが教育の妨げになり、大変かと思う。生徒さんと一緒に活動できる行事を考えていきたい。
- 昨年度まで育友会会長をしていた。保護者さんと正門で挨拶運動をしている。学校評価アンケートに「挨拶をしてくれない」とあるが、してくれていると思う。送迎で正門前が渋滞になるのが気になる。未だに体育服で帰る生徒がいる。自転車の乗り方で危ないことがある。2日に1日は来校するので、気づいたらまた言いたい。
- カルチャーパレスで見たプロジェクト発表は立派だった。本校を卒業した息子とも話した。夜も遅くま

でされているのでは。

- 避難所開設について、年配の方がされることが多いので学生との連携はいいのかなと思った。お互いの強いところと弱いところを補えるような防災教育というのもいい。炊き出し訓練にしても、農業高校なのでとてもよいと思った。
- 南稜祭の時のベンチの販売コーナーがあって驚いた。予約制乗合タクシーのあさぎり町デマンド交通というのがあって、巡回している。しかし、場所によってはベンチがない。今年度1つ赤い羽根募金で購入し、今後町内に南稜のベンチが増えたらなと思っている。
- IターンやUターンで帰ってくる人のためにも、この地に働く場を作っている。農業の魅力がまだまだ伝わっていないのでは。「あさぎり商社」は待遇も悪くないので、卒業してそのままあさぎりで働いてほしい。

## 5 総合評価

各重点目標の評価は次のとおりである。

### ① 授業の充実について

新型コロナウイルス感染症対策を行った公開授業の開催や授業研さんの機会を通して、南稜スタンダードの浸透及びその定着を図る機会を設けた。「南稜スタンダードに従った分かる授業が展開されている」と回答した職員は93.9%であり、南稜スタンダードを意識した授業が展開されている。その結果、生徒からは「授業で『わかった』『できた』という達成感がある」87.8%、「授業中の指示や説明はわかりやすい」93.2%、「板書は丁寧で読みやすい」92.2%、「わかるまで教えてくれる」92.4%と昨年度を上回る高い評価を得た。また、保護者からは「南稜高校への進学は、子供の将来にとって意義がある」93.6%、「私の子どもは高校生活をとおして成長していると実感している」92.8%、「南稜高校での授業は私の子どもの夢や進路を叶えるものになっている」85.2%と高い評価を得たが「南稜高校に入学して私の子どもの成績(学力)は向上した」は75.0%とやや低い結果となった。

今後も生徒への学習に対する興味・関心を高めるような工夫及び「南稜スタンダード」の理念に基づいた授業実践を継続していく。

### ② 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚について

個々の生活の乱れに起因する要因を具体的に把握し、家庭との緊密な連携や生徒との信頼関係を築くとともに、学級経営においてもお互いに声を掛け合える集団に高めることで基本的な生活習慣の確立に取り組んだ。

アンケートの結果、「本校は落ち着いたよい学校である」と回答したのは保護者が86.9%、職員で70.4%と高かったのに対し、生徒では53.9%と低い結果となった。本校の校則等に対する理解度に関する質問については、生徒が70.4%、保護者が85.6%と概ね理解されているようであった。また、「本校の先生は問題行動や服装の乱れなどを見逃さず適切に指導してくれる」の質問に対しても生徒が84.6%、保護者が81.3%、職員86.8%と高い評価となった。しかし、保護者アンケートで、「子どもに関する悩みや心配事を学校・先生と共有できている」の質問については68.7%と低い傾向が見られた。

本校生は自尊感情や自己肯定感が低い傾向にあり、学校行事や部活動、南稜スタンダードによる授業展開などをとおして、生徒一人ひとりが自分自身に自信をもち、新たなことや困難なことにも挑戦しようとする意欲と能力の向上に努めた結果、「私は高校生活をとおして成長していると実感している」89.6%、「南稜高校に通うことは自分の将来にとって意義があると感じている」88.6%、「南稜高校での授業は私の夢や進路を叶えるものになっている」81.0%、「南稜高校の体育大会や文化祭などの学校行事は、楽しく充実している」89.6%と高い評価であったが「私は学校行事や部活動、ボランティア活動などに積極的に参加している」69.7%と低い傾向が見られた。さらに保護者のアンケートでは、「私の子どもは高校生活をとおして成長していると実感している」92.8%、「南稜高校への進学は、子供の将来にとって意義がある」93.6%、「南稜高校での授業は私の子どもの夢や進路を叶えるものになっている」85.2%、「南稜高校の体育大会や文化祭などの学校行事は、楽しく充実している」90.3%、「私の子どもは部活動や学校行事、ボランティア活動などに積極的に参加している」86.0%と高評を得た。今後も引き続き、三部会活動を活発にできるよう取り組んでいきたい。

### ③ 教育相談体制の充実について

中途退学等の進路変更者数の減少を目指し、学力の定着、定期的な面談の実施、自治体や関係機関との連携に取り組んだほか、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめを起こさない雰囲気づくりやいじめ通報アプリの活用等に取り組む、いじめ件数0件を目指した。

アンケートにおいては、個性やニーズに合った指導や支援に関する質問で生徒が78.5%、職員が71.2%。悩みや相談に親身になって応じてくれる(いる)の質問で生徒が86.5%、職員が96.2%と高い結

果となったが、保護者では 68.7%と低い傾向が見られた。新型コロナウイルス感染症の感染防止で家庭訪問も制限されるなどの影響もあったが、家庭との連携に課題が見られた。

また、診断がある生徒については、個別の教育支援計画、指導計画を全て作成することができたが、活用まではできていない。面談については年間行事に面談週間を設定したことで定期的を実施することができた。

ピア・サポート研修、GRIP 研修において、昨年同様に生徒が主体となって LHR を進めることができた。

#### ④ 安全・防災・保健・環境教育の充実について

昨年度からの 2 年間、学校安全総合支援事業(防災)の指定を受け防災事業を展開している。

今年度も、あさぎり町役場と連携して、地震や火災を想定しての避難訓練を行った。あさぎり町と避難所に関する協定書及び覚書も交わしており、あさぎり町での避難所開設・運営訓練に参加した。次年度以降も地域を巻き込んだ活動を展開していきたい。

#### ⑤ 魅力ある学校づくりの推進について

新型コロナウイルス感染症の影響により PR 活動に制約がある中、従来の PR 活動のほかに PR 動画の作成などに取り組んだ。HP1 日平均閲覧数は 1000 件以上であった。また、中学生保護者向け学校説明会は今年度も対話型で行い満足度は 100%であった。また、高大連携において、緑の流域治水の一環で「田んぼダム」や「雨庭」、「森林治水」の事業を行い、シクラメン栽培では「マイクロバブル実証実験」を行うことができた。さらに、地域連携として、肥後銀行地域振興部を招聘しての農業経営講習会や、鳥獣対策講習、キセキ九州とのスマート農業講習会、球磨川流域治水対策講習などに参加することができた。

#### ⑥ 地域貢献活動の推進について

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で地域を巻き込んだ取組みはあまりできなかったが、地域でのイベントにダンス部や吹奏楽部が参加し、食品科学科は開発商品の販売等を行うことができた。さらに、総合農業科では農業フェアや、球磨中央デパート、くまもと黒毛和牛の精肉工程見学・販売会、みんなで木育!くまもものづくりフェア in 人吉・球磨、和綿のさとづくり会、宮原サービスエリアでの南稜米販売やコラボメニュー開発などに参加することができた。このように、地域の復旧復興に即戦力として活躍する生徒たちの姿から、建学の精神「球磨の地に人材の泉を掘る」が根付いていることを確信することができた。今後、さらに地域とともに活動できる場を構築していきたい。

#### ⑦ 働き方改革の推進について

「働き方改革の推進計画~できることからまず 1 つ~」で挙げた部活動指針に沿った部活動運営やノー残業デー・クリーンデーの開催、Forms や Cromebook を活用したアンケートの効率化などに取り組むことができた。また、部活動数を見直すことにも着手している。職員アンケートでは「南稜高校は働き方改革が計画的に推進されている」50.0%、「私は働き方改革を意識し、業務の効率化と計画性を図っている」80.8%で目標を下回った。月平均時間外勤務時間は 41 時間程度で前年度よりは減少しているもののさらに対策が必要だと感じている。

次年度は、これまでの取組の成果と課題を踏まえ、本校の実態に応じた業務改善及び教職員の意識改革を進めていく。

なお、自己評価総括表で C 評価の項目に関しては、次年度改善に向けて取り組んでいく。

### 6 次年度への課題・改善方策

#### ① 授業の充実について

南稜スタンダードの浸透及びその定着を図る。ICT を活用した授業の実践を増やしていく。

#### ② 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚について

生徒会主体で整容規定の見直しによる生徒全体の規範意識の高揚をさらに図っていく。また、日常のきめ細かな指導と対話、そして家庭との連携を通して基本的な生活習慣を確立させ、欠席・遅刻や問題行動を防止する。

#### ③ 教育相談体制の充実について

個別の教育支援計画や指導計画の活用をさらに推進し、生徒支援会議や教科担当者会議において具体的

な手立てを提示していく。また、学期に面談週間を設けるとともに7月の豪雨災害に対するアンバーサリー反応への適切な対応と支援を行う。

④ 安全・防災・保健・環境教育の充実について

学校安全総合支援事業(防災)の指定が終わり、地域と連携した事業を継続して行っていく。

⑤ 魅力ある学校づくりの推進について

魅力ある学校づくりを推進するとともに、ホームページやマスコミ等を活用し、本校の特色ある学習活動を周知し、定員確保に努めていく。

⑥ 地域貢献活動の推進について

④の防災関係を始め、ボランティアや地域のイベント等にも積極的に参加していく。

⑦ 働き方改革の推進について

本校の指針である「働き方改革の推進計画~できることからまず1つ~」を推進し、職場環境の改善に努める。